

3 痒疹のガイドラインを読む ～治療～

Treatment of prurigo in accordance with guideline for prurigo

横関博雄

YOKOZEKI Hiroo

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科皮膚科学分野教授

Summary

痒疹とは、痒疹丘疹を主徴とする反応性皮膚疾患と定義されている。痒疹丘疹とは強いかゆみを伴う孤立性の丘疹をいう。原則として集簇しても融合しないのが特徴である。本稿では慢性痒疹の治療を、「慢性痒疹診療ガイドライン」に沿って解説した。「慢性痒疹診療ガイドライン」では、まず慢性痒疹の基礎疾患がないか検索し、基礎疾患の治療とともに皮膚刺激の回避などのスキンケア、生活指導を行う。スキンケア、生活指導とともに、ステロイド外用、局所注射、抗ヒスタミン薬内服、保湿剤、鎮痒性外用薬の外用が第一選択となる。第一選択の治療法で抵抗性のときには、免疫抑制薬外用療法、紫外線療法、液体窒素療法、活性型ビタミンD₃外用療法、カプサイシン軟膏外用療法が第二選択肢になるが、自費診療である。第一選択肢、第二選択肢に抵抗性の難治性痒疹はステロイド内服療法、免疫抑制薬内服療法が適応となることもある。

生活指導

スキンケア、入浴や皮膚を清潔に保つこと、ナイロンタオルなどでゴシゴシ洗い過ぎないこと、部屋を清潔に保ち湿度の管理をすること、爪切りをまめに行い爪を伸ばさないことなどの生活指導が大切である。

乾皮症

痒疹は虫刺され、デルマドロームとしてのリンパ腫、悪性腫瘍、金属アレルギーなどで基礎疾患に伴い二次的に発症すると考えられているが、実は皮膚の乾燥が原因であることが多い。適切な保湿を行うことにより意外と簡単に軽快することもある。

KEY WORDS

慢性痒疹診療ガイドライン, ステロイド外用 (topical steroid therapy), 抗ヒスタミン薬, 生活指導, 乾皮症